

- OAT社のオープンソースソフトウェアであるCBTプラットフォームTAOに音声録音機能を加えるカスタマイズを行って作成

(参考) TAO動作環境
 サーバ：XAMPP(Apache, MariaDB, PHP)
 クライアント：Windows, OS X, Linux, ChromeBook

- 音声録音機能として、JavaScript「MediaRecorder API」を使い追加実装

※APIに対応しているWebブラウザはChrome、Firefoxに限られ、クライアントとしてはWindowsの端末に限られる

- プログラムには、サーバのXAMPPとWebブラウザのChromium Portable（平成30年度全国学力・学習状況調査 中学校の英語予備調査で利用実績のあるversion 61.0.3153.0）を同梱し、ローカル上でプログラムが完結するように作成

- その他仕様については以下のとおり

○Proxyの設定：localhostへのアクセスを許可するように設定を行う必要がある

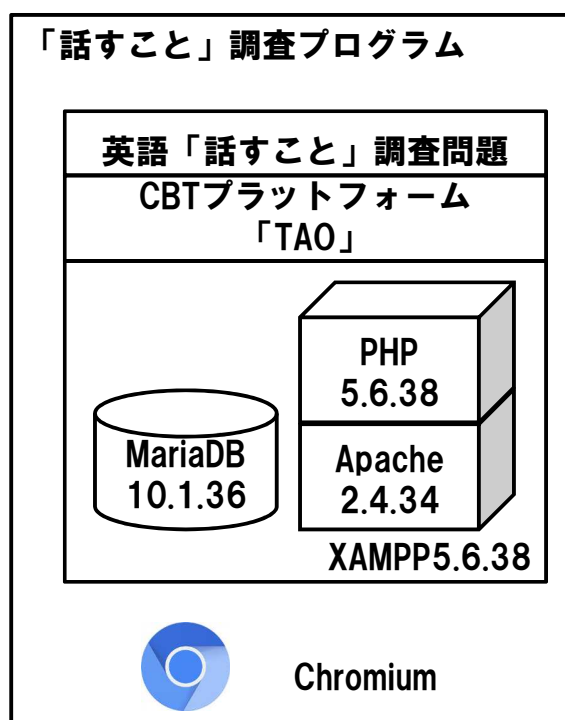
(使用アドレス、ポート：localhost:80)

○プログラム容量：zip圧縮時 290 MB、展開時 806 MB

○音声録音： wavに比べて4倍軽量化でき、可逆圧縮方式であるflacのフォーマットを採用

○回収ツール：
 ・各PCの音声ファイルをUSBメモリにコピーするためのツールをプログラムに同梱
 ・各PCからの保存先はUSBメモリのほかにネットワークドライブも選択可能
 （1台ずつUSBメモリに回収するほか、学校サーバ経由でまとめた回収も可能）
 ・全PCから回収後、回収ツールの「ドライブ内生徒数」（生徒番号毎のフォルダ数）と調査実施生徒数が一致していることを確認して提出

「話すこと」調査プログラム及び回収ツールの構成



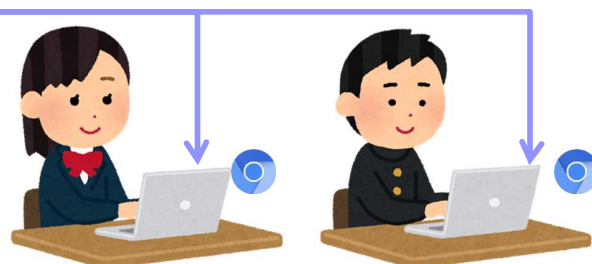
Apache使用ポート 80
 localhostでプログラムに同梱のブラウザ (Chromium) からアクセス

音声録音はJavascriptの「MediaRecorder API」を利用

回収は調査プログラムに同梱のツールを利用

各PCへインストール
 各PCでブラウザからプログラムを実行
 各PCから回収（学校サーバ経由の回収も可能）

音声データを2本のUSBメモリ（保存用、提出用）で回収した後、「話すこと」プログラムごと各PCから削除



平成 30 年度全国学力・学習状況調査 中学校の英語予備調査の実施状況について

(平成 30 年 6 月 27 日開催「全国的な学力調査に関する専門家会議」資料2より抜粋)

1. 調査実施概要

- ◆全国の公立中学校のうち都道府県・指定都市から推薦・抽出された 136 校(約 2 万人の中学 3 年生)で実施。主に、大規模校や特別支援学校等。
- ◆平成 30 年5月1日(火)～31 日(木)の間で、抽出校が選んだ日に順次実施。
※そのため、全国学力・学習状況調査のような全国約1万校の一斉実施における状況は、正確には把握できず。
- ◆スケジュール
 - ・平成 30 年2月中旬～ 学校基本情報の確認
(人数等の基礎情報及び学校の ICT 環境の確認)
 - ・平成 30 年4月中旬 調査マニュアル及び検証用 USB メモリを送付
 - ・平成 30 年4月下旬～ 都道府県・指定都市教育委員会に対し、参考資料を送付
調査対象校に対し、順次調査資料を送付(調査前日)
市区町村教育委員会に対し、順次参考資料を送付(調査前日)
 - ・平成 30 年5月上旬～ 調査対象校から、順次調査資料を回収(調査翌日)
 - ・平成 30 年5月中旬～ 採点
- ◆実施方式
 - 「聞くこと、読むこと、書くこと」調査:CD を校内放送機器等で再生し、出題(マークシート方式、45分間)
 - 「話すこと」調査:基本的に、学校の PC 教室等で既存の PC を用いて、音声を録音する形式で実施(準備時間も含め15分程度)

2. 調査実施状況

135 校において実施完了

- 一部生徒の「話すこと」調査の音声データ録音不具合:12 校 135 名
 - ・全欠損:3校 20 名(PC の故障、音声入力機器の外れなど)
 - ・一部欠損:9校 115 名(PC のスペック不足により録音に失敗など)
- 校内放送/使用機器の不具合:10 校
- その他、生徒間の距離が近いいため互いの声が聞こえる、準備等の手間がかかるといった意見あり。

※調査結果は公表せず、平成 30 年9月頃に、調査対象校、設置管理者である市町村の教育委員会及び都道府県・指定都市教育委員会に提供。

公立中学校等におけるコンピュータ等の整備状況について

「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より(平成30年3月,平成31年3月時点)

○教育用コンピュータのOS別台数(公表値)

平成30年3月時点

全体台数※	Windows 10	Windows8	Windows7	Windows Vista	Windows XP	その他 Windows	Mac OS	iOS	Android	その他 OS(Linux等)
553,037 (100%)	153,739 (27.8%)	151,704 (27.4%)	206,070 (37.3%)	9,107 (1.6%)	4,121 (0.7%)	1,037 (0.2%)	2,790 (0.5%)	20,991 (3.8%)	2,326 (0.4%)	1,152 (0.2%)

平成31年3月時点

全体台数※	Windows 10	Windows8	Windows7	Windows Vista	Windows XP	その他 Windows	Mac OS	iOS	Android	その他 OS(Linux等)
569,419 (100%)	230,846 (40.5%)	138,570 (24.3%)	149,101 (26.2%)	5,795 (1.0%)	2,339 (0.4%)	1,618 (0.3%)	2,918 (0.5%)	34,589 (6.1%)	2,072 (0.4%)	1,571 (0.3%)

○校内ネットワーク環境:接続回線速度について(公表値)

平成30年3月時点

全体学校数※	1Mbps未満	1Mbps以上～30Mbps未満	30Mbps以上～100Mbps未満	100Mbps以上
9,389 (100%)	9 (0.1%)	813 (8.7%)	2,828 (30.1%)	5,737 (61.1%)

平成31年3月時点

全体学校数※	1Mbps未満	1Mbps以上～30Mbps未満	30Mbps以上～100Mbps未満	100Mbps以上
9,324 (100%)	28 (0.3%)	634 (6.8%)	2,413 (25.9%)	6,247 (67.0%)

○校内ネットワーク環境:接続先(プロバイダ)について(公表値)

平成30年3月時点

全体学校数※	直接民間プロバイダへ接続	教育センター等経由により接続
9,389 (100%)	2,272 (24.2%)	7,116 (75.8%)

平成31年3月時点

全体学校数※	直接民間プロバイダへ接続	教育センター等経由により接続
9,324 (100%)	2,311 (24.8%)	7,011 (75.2%)

※義務・中等・特支の中学課程は含まれていない。

事業者において開発時に以下の環境でも問題なく動作することを確認。

種別	メーカー	機種	OS	CPU	メモリ	HDD（空き容量）	画面解像度	テキスト DPI
タブレット	富士通	Arrows Tab Q584	Windows8.1 Pro 32bit	インテル® Atom™ Z3770（最大 2.40GHz）	4GB	HDD空き:3.57GB	2560 x 1600	200%
ノート	東芝	Dynabook BB452/F	Windows7 Pro 32bit	インテル® Celeron® プロセッサー B820	2GB	HDD空き:193GB	1366 x 768	100%
ノート	ソニー	VAIO S11	Windows10 Pro 64bit	インテル® Core i5-6200U(2.30GHz)	8GB	HDD空き:87GB	1920 x 1080	150%
タブレット	富士通	Arrows Tab Q507	Windows10 Pro 64bit	インテル® Atom™ プロセッサ x5-Z8550	4GB	HDD空き:505MB	1920 x 1200	150%
ノート	NEC	VersaPro VK20E/A-J	Win8.1Pro 64bit	インテル® Celeron® プロセッサー 2950M*14	4GB	HDD空き:333GB	1366 x 768	100%
ノート	acer	Swift 5	Windows 10 Inside Preview	インテル® Core i5-8250U(1.6GHz)	8GB	HDD空き:267GB	1920 x 1080	100%

1

「話すこと」調査プログラムの動作検証環境（調査実施後）

調査実施後、第三者（大学）に検証を依頼し、以下の環境において問題なく動作することを確認。

種別	メーカー	機種	OS	CPU	メモリ	HDD（空き容量）	内蔵マイク
デスクトップ	HP	Elite Desk 800 G3 SFF	Windows8.1 Pro	インテル®Core™ i7-6700(3.4GHz)	8GB	HDD空き:742GB	なし
ノート	富士通	LIFEBOOK SH90/T	Windows7	インテル® Core i5-5200U(2.2GHz)	4GB	HDD空き:146GB	あり
ノート	HP	HP ProBook 450 G2	Windows10 Pro	インテル® Celeron® 3205U(1.5GHz)	4GB	HDD空き:392GB	あり

【検証報告より抜粋】

<音声データについて>

雑音の混入やハウリング等はなく、全てクリアな状態で保存されております。

データ欠損もなく、検証した人数分の全ての設問において、回答データの回収ができました。

<内蔵マイクについて>

内蔵マイク搭載のノートPC、Windows8.1 と Windows7 のテスト環境で、「システム」>「サウンド」>「録音」の状態を見ながら、ヘッドセットを挿してみたところ、内蔵マイクが自動的にOFFになりました。

2

平成 30 年 9 月
文部科学省初等中等教育局参事官付学力調査室

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の 中学校英語「話すこと」調査に向けて

全国学力・学習状況調査の実施に当たっては、平素よりご理解・ご協力いただきありがとうございます。

来年 4 月 18 日（木）に実施予定の「平成 31 年度全国学力・学習状況調査」における中学校英語の「話すこと」調査では、各学校のコンピュータ室等の PC 端末、配布する USB ヘッドセット及び USB メモリを活用し、音声録音方式により、一学級が同時に調査を行います（時間割モデルは別紙参照）。

つきましては、現時点における来年度の中学校英語「話すこと」調査の具体的な手順について次ページ以降にお示ししますので、各教育委員会におかれましては、事前のご確認・ご準備をよろしくお願いいたします。具体的な確認・準備作業については、各学校の ICT 環境によって異なりますが、確認事項の一例をまとめましたので、ご参照ください。

今後の段取りとしては、本年 11 月中旬に、文部科学省より、「学校基本情報」の確認（AB 調査）の中で、各学校の ICT 環境（具体的にどのような PC を使用しているか等）を把握させていただく予定です。また、来年 1 月に、Web システムを通じて、「事前検証ツール」を配布する予定です。この「事前検証ツール」は、来年度の中学校英語「話すこと」調査と同じ調査プログラムでの検証となりますので、確実に実施していただくよう、よろしくお願いいたします。

それまでは、本年 5 月に実施した英語予備調査で使用した調査用 USB ヘッドセットや調査用 USB メモリをご活用の上、確認作業を進めていただくことも有効です。その際、予備調査の USB メモリを用いて検証した後は、必ずコピーしたツール類を各 PC 端末から削除するようにしてください。なお、英語予備調査の概要については、下記の国立教育政策研究所ホームページ（TOP > 全国学力・学習状況調査 > 英語予備調査）をご参照下さい。

http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/kannren_chousa/eigo_yobichousa.html

なお、来年 1 月以降に、文部科学省による中学校英語「話すこと」調査に関する説明会を実施する予定です。詳細については改めてご連絡いたします。

来年度の中学校英語「話すこと」調査の手順

事前準備

- ① 調査プログラムを Web システムから学校の PC にダウンロード
- ② 調査プログラムを生徒用 PC に展開（コピー）

実施

- ③ 各 PC で調査を実施（音声データは PC 内のローカルドライブに保存）

回収

- ④ 調査実施後に USB メモリを用いて音声データを回収
※生徒用 PC1 台 1 台から回収する方法の他に、サーバ経由で解答データを回収し、サーバから USB メモリを用いて全解答データを回収することも可能（詳細は別途ご連絡）

削除

- ⑤ 各 PC 内の残データを削除

確認事項（一例）

■各 PC の性能、OS（基本ソフトウェア）の確認

各 PC で必要とされる性能は以下のとおりです。ただし、これはあくまで目安であり、他にインストールされているソフトウェアの影響を受ける可能性もあります。来年 1 月に配布予定の「事前検証ツール」にて、必ず事前検証を行ってください。

- OS : Windows7 以上
- HDD : 空き容量 2GB 以上
- メモリ : 4GB 以上
- その他 : USB 空きポート 1 ポート以上（調査用 USB ヘッドセットで利用）

■セキュリティ環境や環境復元ソフト等の確認

セキュリティの関係上、事前登録した USB メモリしか使用できない設定になっていた（USB ポートを遮断）、新たなファイル等をコピーしても、再起動すると消えてしまう環境復元ソフトが導入されていたりする場合があります。これらの場合、調査の円滑な実施のために、一時的な設定の解除が必要となります。

また、フィルタリングソフトを導入している場合も、同様に一時的な設定変更の必要が生じる場合があります。

■セキュリティ環境や環境復元ソフト等の解除の方法・手順の確認

上記のとおり、一時的な設定変更が必要となる場合があるため、適切に対応できるよう、予め設定方法をマニュアル化しておく等の対応が有効です。

《問合せの多い事項》

Q1

来年度の中学校英語「話すこと」調査プログラムは、Windows 以外の OS に対応していますか。(Linux や Android にも対応していますか。)

来年度の中学校英語「話すこと」調査プログラムは、Windows 対応のものとなります。それ以外の OS の場合は、代替の端末を利用する等、Windows 環境で調査が実施できるよう、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

Q2

本年5月の英語予備調査との違いは、どのような点でしょうか。

英語予備調査では、調査前日に USB メモリが各学校に送付され、格納された調査プログラムの展開作業を行っていただきましたが、来年度の英語「話すこと」調査においては、事前に、Web システムから調査プログラムをダウンロードしていただけるよう改善を図っています。また、回収についてもサーバ経由の回収を可能とできるよう検討しています。

Q3

大規模校などで PC の台数が不足している場合は、どうしたらよいでしょうか。

来年度の中学校英語「話すこと」調査は、対象学年（中学校3年生）が9学級以下の学校であれば、同一学級の生徒が一斉に、かつ、原則として、調査対象学年の生徒全員が3単位時間以内で終わるよう設計されています。なお、10学級以上の大規模校で3単位時間以内に調査が実施できない場合は、不足台数を貸し出す予定ですので、本年11月の「学校基本情報」の確認（AB調査）後、別途、ご対応についてご相談ください。

（参考）9学級の場合の時間割例

1時限目 (50分)	2時限目 (50分)	3時限目 (50分)	4時限目 (50分)	5時限目 (50分)	6時限目 (50分)
国語 (50分)	数学 (50分)	英語 「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」 (45分)	英語 「話すこと」 (1組、2組、3組) ※	英語 「話すこと」 (4組、5組、6組) ※	英語 「話すこと」 (7組、8組、9組) ※

※生徒質問紙(20~45分程度)は、「話すこと」調査を実施していない時間帯に順次実施。

Q4

タブレット等USBポートがないPCの場合は、どうしたらよいでしょうか。

来年度の英語「話すこと」調査は、デジタルで高音質の音声データを取得するため、USB ヘッドセットを使用します。そのため、各PCに最低1つのUSBポートが必要となります。

USBポートそのものが無かったり、USBメモリを読取不可にしていたりするPCを利用している学校については、代替機や変換コネクタの利用、設定変更の可否をご検討ください。

Q5

ヘッドセットは、学校で用意する必要があるのでしょうか。

調査に用いるヘッドセットは、文部科学省で用意します。来年1月頃に、検証用USBヘッドセット（1本）を各教育委員会及び各学校にお送りする予定です。これを用いてヘッドセットが正常に機能するかどうか事前検証を行ってください。また、調査当日に使用するヘッドセットは、調査前日に到着する資材に同梱します。

Q6

現在、本年5月の英語予備調査で使用した調査用USBメモリを用いて検証作業を行っています。これで対応可能であれば、来年度の英語「話すこと」調査も問題ないと判断してよいでしょうか。

本年5月の英語予備調査で使用した調査用USBメモリを用いて検証作業を行っていたが、現時点での課題を把握していただくことは有効だと考えています。ただし、来年度の中学校英語「話すこと」調査は、予備調査プログラムに若干の改善を加えているため、来年1月にWebシステムを通じて配布する「事前検証ツール」による検証作業を必ず行ってください。（「事前検証ツール」のプログラムは、来年度の中学校英語「話すこと」調査と同じプログラム仕様となっています。）

Q7

「事前検証ツール」が動作しなかった場合は、どうすればよいでしょうか。

環境を変更しなければならない可能性があります。今後Webシステムに掲載予定のFAQをご確認いただき、適宜設定変更を行ってください。ご不明点があれば、コールセンター（11月頃開設予定）もご活用ください。また、状況に応じて、各自治体の情報担当部局ともご相談ください。

事務連絡

平成 30 年 11 月 12 日

各都道府県・指定都市教育委員会
各都道府県私立学校担当部局
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた
地方公共団体の学校設置会社担当部局
各国立大学法人附属学校担当部局
各公立大学法人附属学校担当部局
全国学力・学習状況調査担当課 御中

文部科学省総合教育政策局調査企画課学力調査室

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の中学校英語

「話すこと」調査の実施について

全国学力・学習状況調査の実施に当たっては、平素より御理解・御協力いただきありがとうございます。

<はじめに>

来年 4 月 18 日（木）に実施予定の平成 31 年度全国学力・学習状況調査における中学校英語「話すこと」調査では、各学校のコンピュータ教室等の PC 端末、配布する USB ヘッドセット及び USB メモリを活用し、音声録音方式により、一学級が同時に調査を行います。

この「話すこと」調査は、全国学力・学習状況調査において、筆記方式以外の新たな方式を初めて導入する調査であり、PC 端末等を活用することから、実施に当たって事前の確認・準備などの一定の作業が必要となります。このため、中学校英語「話すこと」調査の具体的な手順及び準備に向けての確認事項（一例）について、本年 9 月 28 日付事務連絡にてお知らせしたところです。各設置管理者におかれては、同事務連絡を参考に事前の御確認・御準備を進めていただいていることと存じます。

現在、一部の設置管理者から、調査に必要な PC 端末等の整備が間に合わない等の御相談をいただいております。

<英語調査導入の経緯>

文部科学省では、平成 29 年 3 月の「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告」において、英語教育の充実に向けて、平成 31 年度全国学力・学習状況調査の中で、中学校英語調査（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）を行うと提言されたことを受け、全ての中学校で実施できるよう調査設計を検討し、本年 5 月には全国 136 校（約 2 万人）が参

加する英語予備調査を実施し、準備を進めてきました。また、英語「話すこと」調査の実施方法については、前述の最終報告（平成 29 年 3 月）において、生徒と教員の対面による調査方法で実施することは、採点の妥当性・信頼性、技術開発の可能性、必要となる調査時間等の観点から課題があるため、コンピュータやタブレット等を活用した音声録音方式で行う旨、提言されており、本年の予備調査及び来年度調査も、この方針に基づいて進められています。

<調査方法>

来年度の英語「話すこと」調査における具体的な手順については、本年 9 月 28 日付事務連絡のとおりですが、この調査方法は、現状の各学校の ICT 環境の整備状況を踏まえて設計されたものです。具体的には、平成 30 年 3 月現在、公立中学校に設置されている PC のうち約 95% の OS が Windows であること等（※）を踏まえ、来年度の「話すこと」調査プログラムは Windows 対応のものを使用することとしました。また、全学校一斉のネットワーク接続により、帯域不足による遅延などの支障が想定されることから、調査方法はオンライン方式ではなく USB メモリを活用したオフライン方式としています。

さらに、英語予備調査の実施状況を踏まえ、調査の準備や実施に当たって必要な作業にかかる学校及び教職員の負担をできる限り軽減すべく、調査プログラムを改良し PC への負荷を低減したり、調査プログラムの生徒用 PC への展開や生徒用 PC からの音声データの回収をサーバ経由でできるように手順を改良したりするなど、調査手順等に一定の改善を図っております。

一方、来年度の英語「話すこと」調査は、各学校の PC 端末等を活用した調査であることから、各学校の ICT 環境の整備状況によって、各学校における準備や実施にかかる負担が多様であり、その程度が現時点で網羅的かつ詳細には把握できないこと、さらに、万全に準備をした場合においても、PC 端末の故障や不具合等が発生しうることなど、準備から実施に至る過程で、筆記方式の調査とは異なる課題や制約を抱えています。

<特例措置>

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力等の把握・分析を通じて、教育施策の改善を図ることを主な目的としています。したがって、教科調査（国語、算数・数学）及び質問紙調査（児童生徒、学校）を一体として扱い、毎年度（平成 22～24 年度を除く）悉皆で調査を実施してきました。調査の趣旨・目的は、来年度調査においても変わるところはないものの、英語「話すこと」調査は、初めて、筆記方式以外の方式で学校の PC 端末を活用し実施するものであり、各学校の ICT 環境が様々であることから、来年度の中学校英語調査のうち「話すこと」調査に限った特例的な措置として、下記のとおり、取り扱うこととします。なお、この措置については、本年 12 月に策定・公表予定の「平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」において定めるものですが、各設置管理者に対して前もってお知らせするものです。

各設置管理者においては、下記の 1. について、各学校の ICT 環境の整備状況を把握し、各学校の状況を十分踏まえた上で、検討し、対応を判断いただくようお願いします。

なお、各設置管理者においては、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語

活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するという新学習指導要領・外国語科の目標を見据えた英語教育の充実・改善に向けて、来年度の英語「話すこと」調査への対応にかかわらず、来年夏に公表予定の本調査結果及び同解説資料等も活用しながら、学校への指導、教員研修、指導体制の充実等の教育施策の改善・充実を図っていただくようお願いします。

また、各教育委員会におかれては、平成 30 年 7 月 12 日付生涯学習政策局長・初等中等教育局長通知「第 3 期教育振興基本計画を踏まえた、新学習指導要領実施に向けての学校の ICT 環境整備の推進について（通知）」の趣旨を踏まえ、引き続き、学校の ICT 環境の整備等に万全を期していただくようお願いします。

なお、来年度の英語「聞くこと」「話すこと」調査においては、発話や聴覚に障害のある生徒に対して障害の状態に応じた配慮をすることとします。

については、各都道府県教育委員会におかれては、本件について確認いただくとともに、域内の市（区）町村教育委員会（指定都市教育委員会を除く）に対しても周知いただきますようお願いいたします。

※全国の公立学校（小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）を対象とした「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」結果に基づくもの。

記

1. 平成 31 年度全国学力・学習状況調査中学校英語「話すこと」調査については、設置管理者が各学校の ICT 環境の整備状況を把握し、各学校の状況を十分踏まえた上で、検討し、設置管理者の判断により学校単位で「話すこと」調査を実施しないこととすることができる。
2. 「話すこと」調査の実施状況については、調査実施後に文部科学省において確認の上、実施校の全国総数のみを公表する。
3. 平成 31 年度全国学力・学習状況調査中学校英語調査の結果については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また、「話すこと」調査結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。
4. 1 により「話すこと」調査を実施しなかった学校についても、「話すこと」調査問題及び調査結果を活用した授業改善が行えるよう、調査実施後すみやかに、調査問題、正答例、問題趣旨及び解答類型を公表する。

平成31年度全国学力・学習状況調査における中学校英語「話すこと」調査に係る 地域別説明会の開催について

趣旨

中学校英語「話すこと」調査は、各学校のコンピュータ教室等のPC端末やUSBヘッドセット等を活用した音声録音方式により行われる初めての調査。
調査の円滑な実施に向けて、文部科学省による説明会・相談会を開催し、各設置管理者の間で共通理解を図り、本調査実施に向けて万全を期す。

対象者

各都道府県教育委員会担当者
各市区町村教育委員会担当者
各都道府県私立学校担当者及び私立学校を設置する学校法人担当者
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体担当者及び株式会社立学校を設置する学校設置会社担当者
各国公立大学法人附属学校担当者

時 程

◆第一部:全体説明(120分程度)

- 14:00～15:00 英語「話すこと」調査の実施について(文部科学省)
- 15:00～15:30 「話すこと」調査の準備・実施等の手順について(委託事業者)
- 15:30～16:00 質疑応答

◆第二部:個別相談(50分程度)

- 16:10～16:20 サーバ経由での展開・回収方法について(委託事業者)
- 16:20～17:00 個別相談会(対象:登録いただいた都道府県※及び指定都市教育委員会担当者) ※私立学校担当者含む

開催日・会場

全国 8カ所(7地域)にて開催。合計1,029人が参加。

都道府県教育委員会	:	77人
市区町村教育委員会	:	782人
私学担当者	:	125人
国立担当者	:	45人

	開催日	会 場 (参加人数)
第1回	1月16日(水)	【岐阜県】じゅうろくプラザ 大会議室 (121人)
第2回	1月22日(火)	【東京都】国立オリンピック記念青少年総合センター (222人)
第3回	1月25日(金)	【北海道】会議・研修施設ACU-A (141人)
第4回	1月29日(火)	【兵庫県】兵庫県民会館 9Fけんみんホール (201人)
第5回	1月31日(木)	【徳島県】アスティとくしま 第2特別会議室 (62人)
第6回	2月 5日(火)	【宮城県】宮城県総合教育センター (66人)
第7回	2月15日(金)	【福岡県】福岡県吉塚合同庁舎 (146人)
第8回	2月26日(火)	【東京都】内田洋行 新川本社 (70人)

音声データ欠損等の生じた学校における検証結果の概要について

学校名		A中学校	B中学校	C中学校	
①各学校におけるPCスペック等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	170/170 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：170人	108/108 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：108人	50/168 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：10人 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：40人
	2	実施場所	コンピュータ教室	コンピュータ教室	コンピュータ教室
	3	CPUクロック数	1.00GHz	1.00GHz	2.50GHz
	4	メモリ	4GB	4GB	4GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	26.4GB/59.2GB	33.2GB/59.2GB	207GB/232GB
	6	OS	Windows 8 Pro	Windows 8 Pro	Windows7 Pro 32bit
	7	導入年度	2014年度	2014年度	2012年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)			
	8	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)			○
9	PCの使用頻度	・週に7時間程度使用 (主に技術家庭科で5時間、他教科で2時間程度)	・週に8～12時間程度使用 (主に技術家庭科、英語科、総合的な学習の時間)	1学期(4月～7月)は、技術科(情報とコンピュータ)においてほぼ毎日2～3時間程度使用。7月以降は使用頻度は下がるが、毎日1時間程度(週当たり4～5時間)は使用。昨年度は全国学調準備のため、3月以降、学調実施日まで使用を控えていた。	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	2月初旬に教育委員会担当者がA中学校で事前検証ツールで確認。その後、各学校において検証したところ、いくつかの学校で問題があった。最初に動かないという報告があった中学校で、修正プログラムを使い再度事前検証を行ったところ、正常に録音できた。事前検証時点では音声已全部あったかは確認していないが、音声で判断できる範囲で聞くことができた。(ただし電子音のように聞こえた。)	事前検証ツールをマニュアル通り実施して音声聞こえることを確認したが、音声ファイル数を数えることはマニュアルにはなかったため教えていない(=欠損があったかどうかはわからない)。	前日の検証では、音が出るか、画面が切り替わるかを全台で確認した。それまでの検証で中央の数台の端末が使えないことがわかっていたので、本番当日は使える端末に移動して調査を実施した。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	切り替わりが遅かったが最後まで実施できた。	切り替わりが遅く15分以上かかっていた。	画面が切り替わる時間が端末によってまちまちだった。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	USBで1台ずつ回収(サーバー経由で実施すると何か不具合があると考えたため)	USB 2本をそれぞれ逆の端からクロスするような形で端末一台ずつ読み込み	
	13	検証結果	事前検証ツールでも調査プログラムでもどちらでも欠損が再現。検証作業を行う中で、CPUスベックによりコピーやzipファイルの解凍においても非常に時間がかかっていることが確認できた。CPUリソースの占有率高くなったところに「話すこと」調査プログラムを起動したため、CPU占有率が100%に近い状態で調査を実施することとなった。その状態で調査を進めたことにより同プログラムの録音機能が正常に動作せず欠損が起こったと考えられる。		検証では欠損は再現せず。調査当日と何が異なっていたかについては検証およびヒアリングでは判明しなかったが、調査当日は画面が切り替わる時間が端末によってまちまちだったという証言から、CPU等のPCリソースが不足していた可能性が考えられる。PCを長時間起動し続けているなどの理由でリソース不足が発生し、欠損が発生した可能性が高いと推測される。

学校名		D中学校	E中学校	F中学校	
①各学校におけるPCスペース等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	72/77 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：72人	102/106 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：102人	149/149 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：149人
	2	実施場所	コンピュータ教室	コンピュータ教室	コンピュータ教室
	3	CPUクロック数	3.30GHz	1.7GHz	2.20GHz
	4	メモリ	4GB	4GB	2GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	161GB/164GB (Dドライブ)	176.76GB/232.54GB	182MB/199MB (Dドライブ)
	6	OS	Windows 7 Pro	Windows8.1 Pro x64	Windows 7 Pro 32bit
	7	導入年度	2012年	2014年度	2011年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)	○		
	8	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)	○	○	
9	PCの使用頻度	・数学科で週平均 1 時間	・技術家庭科で週平均2～3時間 ・放課後に生徒会で4～6時間	授業で毎週 4 コマ使用。 校外学習等の調べ学習や各教科のレポート作成等で 5 月や年度末に使用頻度が高まる。	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況 (事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	1. Cドライブに環境復元がかかっていた →Dドライブにインストール 2. 503エラーが出る (おそらく Proxy) →LANケーブルを抜いて対応 3. 前日確認では問題なく実行できたが、12時間経過後に正常な動きをしない。前日はログイン画面を表示したまま帰った。	2台で確認、問題なく音声はとれていた。ファイル数は未確認。	最初のプログラムver1.0ではうまく動かず、修正版の1.1でうまく動いた。何回か音が取れないこともあったが、もう一度取得するとうまく取れ、音も聞こえたため実施する判断とした。コンピュータ教室に各学校の先生を集め、研修会を行い手順の周知を行った。
	11	当日の実施状況 (不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	(パターン1) 画面で問題文が表示されている途中で切り替わるなどの状況がおきる (中途半端に動く) ため、多くの生徒が戸惑っていた。 (パターン2) ログイン直後にロードしない。	4時限目に実施、1時限目に電源を入れた。 全端末で特に問題なく実施できた。ほぼ同時に終わり、端末ごとにスピードが変わる、画面の切り替えで引っかかる等は見受けられなかったため、うまく調査できているものと思っていた。	画面が切り替わる速度は端末ごとに差異があった。また、何名かは画面が途中で止まり、別の端末で実施し直した。
	12	事後の回収状況 (回収時のプロセスの確認等)	時間はかかったが特に問題はなかった。	ネットワークドライブに入れて、USBにコピーして回収。	特に問題はなかった。
	13	検証結果	起動直後は欠損が再現しないが、PCを起動した状態にしていると欠損が再現。調査当日、1時限目から4時限目まで2～3時間程度起動した状態で調査を実施したため、他のソフトウェア等に起因するプロセスが起動し、そのプロセスが解放されないことによりCPUリソースを占有することで、プログラムの録音に耐えうるCPUリソースが不足し、欠損が発生した可能性が高い。	調査当日は復元ソフトの復元設定がONになっていたことによりCPUリソースを占有し、「話すこと」調査プログラムの録音に耐えうるCPUリソースが不足した結果、欠損が発生したと考えられる。ただし、これだけが原因と断定できるものではない。CPUのスペックやその他の常駐ソフトの起動によりCPUリソースが占有され、「話すこと」調査プログラムでCPU使用率があふれるかどうかの境目が復元ソフトのON/OFFであった、ということが考えられる。	事前検証ツールでも調査プログラムでもどちらでも欠損が再現。シンクライアント環境であり、かつUSBからプログラムを実行していたことでプログラムの動作が遅くなり、欠損が発生したと考えられる。大問1の欠損については、事前検証ツールと本番の調査プログラムで欠損の状況に差異があることから、録音時間が異なることが少なからず影響している可能性がある。

学校名		G中学校	H中学校	I中学校	
①各学校におけるPCスペック等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	4/151 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：4人	82/166 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：82人	45/93 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：45人
	2	実施場所	コンピュータ教室	コンピュータ教室	コンピュータ教室
	3	CPUクロック数	1.10GHz	2.30GHz	2.30GHz
	4	メモリ	4GB	4GB	4GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	26.61GB/108.3GB	40GB/128GB	40GB/128GB
	6	OS	Windows8.1 Pro 64bit	Windows8.1 Pro 64bit	Windows8.1 Pro 64bit
	7	導入年度	2016年度	2015年度	2015年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)		○	○
	8	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)	○	○	○
9	PCの使用頻度	12学級が週1回ずつ程度使用	授業により週5コマ程度使用	授業により週5コマ程度使用	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	事前検証時にも調査実施時にも、OSのメモリエラーは出た。時間が長い設問だとメモリをかなり使用していた。事前検証時に大問3の途中で止まる現象が起こったかどうかは不明。	事前検証ツールを使用し、独自に用意したマニュアルとおりに作業を行った。その上で、副校長や教務主任、その他複数の教諭によりマイクのチェックを行ったが、特段の問題はなし。	事前検証ツールを使用し、独自に用意したマニュアルとおりに作業を行った。その上で、教諭及びICT支援員の複数で、マイクのチェックを行ったが、特段の問題はなし。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	当日は環境復元をかけた状態で実施。電源が落ちて復元前の状態に戻ってしまった端末は1台のみ。メモリエラーはほぼ全台で発生。「Javaのメモリ不足です」というエラーメッセージが出る。エラーと別のエラーがでて、画面が進まなくなった生徒が16名いたため、再度調査を実施した。一部の端末で大問3の最後で止まってしまう、ブラウザからのエラー画面とPHPのsyntaxエラー、ログイン画面にもどらないものがあつたため、それで録音ができなかったのではないかと思われる。	問題文の音が聞こえない、キーボードからの入力ができない現象の発生した端末が2台あり、計2名の生徒を予備機に移して実施した。	音声のボリュームの大小は、個人差があり、音量は先生の指示で「50」にしたが、クラスに数人「大きすぎる」という子供がいた。ボリューム調整ボタンが、電源ボタンのすぐ下にあつたため、最初のクラスで自分で音量調整をしようとした子供が、電源ボタンを押してしまいシャットダウンしてしまった。2クラス目からは、ボリューム調整が必要な場合は、「拳手」してもらいこちらで調整しようとした子供が、それでも、自分で調整しようとした子供が、またしてもシャットダウンしてしまった。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	回収時にもメモリエラーと異なるエラーが出ていて、その端末から先に回収を行った。	マニュアルとおり、2本のUSBにそれぞれ回収	マニュアルとおり、2本のUSBにそれぞれ回収
	13	検証結果	検証時には定期メンテナンスにより当日とは環境が異なる状態になっていたが、同じ環境を再現させた端末では欠損が発生し、再現させない端末では欠損が発生しなかった。「話すこと」調査プログラムが録音処理を実行した際に、コミット済みメモリが最大値を超えたことで録音が完了できず欠損が起こったと考えられる。	事後の確認では、当日周囲での騒音等は発生しておらず、考えられる要因として、当日に内蔵マイクがONになっていてハウリングが起こって聞き取り不能になった可能性がある。	

学校名		J中学校	K中学校	L中学校
①各学校におけるPCスペース等	1	欠損数/実施数(人) 14/159 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	133/158	3/132
	2	実施場所	コンピュータ室	コンピュータ室
	3	CPUクロック数	1.80GHz	1.44GHz
	4	メモリ	4GB	4GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	40GB/58GB	SSD 18.4GB/57.6GB
	6	OS	Windows8.1Pro	Windows10 Pro 64bit
	7	導入年度	2013年度	2017年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)		
	9	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)		
9	PCの使用頻度	授業で毎週5～6コマ使用	授業で毎週4コマ使用	入試採点データ処理に独立したPCとして、数台を年に数日使用。 生徒はBYOD方式で一人一台自分のPCを持っているので、パソコン教室のPCは使用していない。
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)		
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	フリーズすることも全くなく、スムーズに最後まで実施できたが、「聞き取り不能」の欠損が発生した。	指示されたスケジュールのとおり実施し、想定5分の調査のところ、20分強時間を要した。1台の検証では心配であったので、別の3台で同じように試したが、やはり20分強かかった。しかし、音声データは記録できていたので、調査実施を判断した。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	4クラス実施したが、それぞれ60分ほど要した。切り替わりがあまりにも遅かった。切り替わりが全台遅かった上に、半数以上の端末で質問中や解答中に勝手に切り替わるなどの不具合が出た。前日の時点で不調な端末は予め除いた。切り替わりの異常な遅さで言えば、全台不具合があったと言える。	事前検証ツールで5台確認し(全台は確認していない)、音声に適正な音量で聞こえる、取れていることを確認。4月になってからの、本ツールインストール時に1台処理速度の遅いものがあり、不具合機であったので、別ノートPCに差し替えた。
	13	検証結果	後日、欠損が発生した端末について教育委員会及び導入業者により検証を実施。対象端末がタブレットタイプという点から、ヘッドセットを接続しても内蔵マイクが同時に機能し、ハウリングやノイズの原因となったと考えられる。	同時に開始しても、読み込み速度に違いがあり、(切り替わりの時に時間が少しかかるものがあった。)終わりの時間に数秒の時間差が出た。 実施前に1台不調で機種変更した。回収時に1台不調で回収できなかった。ハード・ソフト共に古い。
13	検証結果	後日、欠損が発生した端末について教育委員会及び導入業者により検証を実施。対象端末がタブレットタイプという点から、ヘッドセットを接続しても内蔵マイクが同時に機能し、ハウリングやノイズの原因となったと考えられる。	指示どおりの回収方法で行った。USBメモリーも3.0対応の新品を使用した。	
13	検証結果	後日、欠損が発生した端末について教育委員会及び導入業者により検証を実施。対象端末がタブレットタイプという点から、ヘッドセットを接続しても内蔵マイクが同時に機能し、ハウリングやノイズの原因となったと考えられる。	USBで1本ずつ計2本回収。回収時に1台フリーズしてしまい、再立ち上げをしても起動せず(ハード的に問題ありと自己診断ができる)その1台で実施した3名分の音声回収できなかった。3名は次の日に再度実施し音声回収、送付を行った。	
13	検証結果	後日、欠損が発生した端末について教育委員会及び導入業者により検証を実施。対象端末がタブレットタイプという点から、ヘッドセットを接続しても内蔵マイクが同時に機能し、ハウリングやノイズの原因となったと考えられる。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末のうち1台に何らかの原因により不具合が発生し、調査プログラムの保存機能が正常に作動しなかったものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	

学校名		M中学校	N義務教育学校	O中学校	
①各学校におけるPCスペック等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	1/113 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：1人	1/40 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：1人	8/156 学校申告の調査実施者数より回収音声データ数が少なかった：8人
	2	実施場所	第2理科室	被服室	美術室/音楽室
	3	CPUクロック数	2.3-2.8GHz	2.00GHz	3.30GHz
	4	メモリ	8GB	4GB	4.00GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	65.3GB/115GB	200GB/500GB	392GB/500GB
	6	OS	Windows 10 Pro	Windows 10	Windows 7 Pro
	7	導入年度	2017年度	2015年度	2016年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)			
	8	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)			○
9	PCの使用頻度	使う学期は毎週最低9コマ使用	週1時間程度使用	20台のPCを使用した10台は大学から借用、10台は業者からのリースであるため、授業では使用していない	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	手順通り実施し、特に問題はなかった。	2月の頭に事前検証ツールで確認し、音声が取れていることを確認。音声ファイルが全部あったかは確認していないが、音声で判断できる範囲で聞こえた。	マニュアルに沿って、事前検証ツールで確認し、音声が取れていることを確認。音声は問題なく聞こえ、画面も問題なくスライドしていった。問題は何も感じなかった。ただし、事前検証ツールでを使用したPCと調査ときに生徒が実際に使用したPCは同じものではない。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	少し切り替えが遅いPCもあったが、最後まで通せた。	フリーズせず最後まで通せた。	美術室で使用したPC(業者からのリース10台)の中で待機中に画面が落ちてブラック状態が続いたものがあった。その時、音声は流れていた。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収
	13	検証結果	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末に何らかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末に何らかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末に何らかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。

学校名		P中学校	Q中学校	R中学校	
①各学校におけるPCスペック等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	4/158 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：3人 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：1人	103/117 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：103人	1/157 学校申告の調査実施者数より回収音声データ数が少なかった：1人
	2	実施場所	コンピュータ室	コンピュータ室	コンピュータ教室
	3	CPUクロック数	2.2GHz	1.00GHz	2.90GHz
	4	メモリ	2GB	4GB	4GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	48.6GB/70.5GB	(C:)12.0GB/49.9GB (D:)9.20GB/9.28GB	200GB/250GB
	6	OS	Windows 7 Enterprise	Windows 8	Windows10
	7	導入年度	2014年度	2014年度	2013年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)			○
	9	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)			
9	PCの使用頻度	毎週5コマ程度使用	授業で毎週18コマ程度使用	高校と共有のため、情報の授業で毎週8時間使用	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	3月に事前検証ツールを確認し、音声が行われていることを確認。他のPCもほぼインストールは滞りなく実施できた。3台不具合が生じたため使用をしなかった。	マニュアルの通り、事前検証ツールで確認を行ったが、音声で判断できる範囲で聞こえ、問題はなかった。校務主任、教務主任と英語科の教員2名、教育機器担当者など、複数の教員で問題がないことを確認している。ただし、問題が示されてから回答するまでの間の時間が長かった。	マニュアル通りに実施。 音声ファイルの存在も正常に確認した。環境回復プログラムがインストールされていたが、システム業者の担当者が来校して各PCについて対応し、「話すこと」調査を正常に実施できる状態に整備した。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	1台フリーズしたので他のパソコンを使用して調査を実施した。	PCのスペックの影響か、問題が示されてから回答するまでの間の時間が数十秒あり、問題の内容を生徒が忘れてしまうのではないかと心配されるほどだった。中には1分近く待たされていると感じる状況もあった。極端に待たされた生徒は、他の生徒がすでに回答が終わっており、自分だけがしゃべっていて気まずい状況になり、かわいそうだった。隣の生徒の声が入らないほど離れて実施することはコンピュータ室の構造上困難であったため、やむを得ずそのまま実施した。1日で調査を終えることを考えると、隣で実施している生徒の声が入らないほど間を空けて少人数で実施することは不可能であり、隣の生徒の答えが聞こえてしまう状況で実施せざるを得なかった。	特に支障なく実施できた。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	指示通りに回収。回収過程においても特段の困難は生じていない。
	13	検証結果	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末に何らかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当日、「問題が示されてから回答するまでの時間が長かった」という証言からも、CPUスペックが調査に影響を及ぼしていた可能性が考えられる。CPUリソースの占有率が高くなったところに「話すこと」調査プログラムを起動したため、CPU占有率が100%に近い状態で調査を進めたことにより同プログラムの録音機能が正常に動作せず欠損が起こったと推測される。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。

学校名		S中学校	T中学校	U中学校	
①各学校におけるPCスペック等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	3/147 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：3人	33/131 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：33人	1/170 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：1人
	2	実施場所	コンピュータ教室	コンピュータ室	技術教室
	3	CPUクロック数	1.8GHz	1.8GHz	2.30GHz
	4	メモリ	4GB	1GB	8GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	75GB/120GB	システム80G/100G、データ48G/49G	50GB/120GB
	6	OS	Windows 8 pro	windows 7 pro 32bit	Windows 10 Pro
	7	導入年度	2013年度	2009年度	2016年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)		○	○
		導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)		○	○
9	PCの使用頻度	授業で毎週16コマ使用、部活動(科学部)ではほぼ毎日使用	授業で毎週4コマ使用	週2回程度使用	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	事前検証ツールが最初ダウンロードできないというトラブルが起きた。文科省の専用窓口にお問い合わせ、現象を説明し、同様のトラブルが他校でも起きていることを確認した上で、専門の業者を呼び、PC内部のインターネットに関する細かい設定を変更して、事前検証ツールをダウンロードできる方法を説明し、その上でPC一台一台のインターネットに関する設定を全て変更した。その際、PCの自動復元ソフトの設定を解除し、PC全台のインターネット関係の設定を変更した後、再度、自動復元ソフトの設定も行った。	事前検証で確認。当日も手順通りに実施。全ての音声ファイルを確認はしていない。	スケジュール通り手順通りに事前検証ツールで確認した。実施も出来、音声は取れていた。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	特に問題はなかった。	特別な不具合などはなかった。	スタートのタイミングが生徒のクリックのタイミングのずれによりうまれ、多少の差があったが滞りなく実施できた。音声が届かない生徒が1名おり、やり直す必要があったが、他クラス実施時に再検査させることで全体のスケジュールに遅れを出すことなく実施できた。当該生徒が欠損があった生徒ではないことは確認した。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	USBで1本ずつ計2本で回収	USBメモリに手順通り回収した。
	13	検証結果	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、導入ソフトウェアなどの動作環境が調査実施時に影響し、PCのリソースを占有するなどしたため、PCに負荷がかかり、調査プログラムに影響した可能性が考えられるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。

学校名		V中学校	W中学校	X中学校	
①各学校におけるPCスペック等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	2/152 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：2人	2/130 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：1人 学校申告の調査実施者数より回収音声データ数が少なかった：1人	3/117 学校申告の調査実施者数より回収音声データ数が少なかった：3人
	2	実施場所	本校情報教育室	情報教室	L L 教室
	3	CPUクロック数	2.4GHz	2.9GHz	3.40GHz
	4	メモリ	12GB(空き9GB)	4GB	4GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	-	190GB/250GB	323GB
	6	OS	Windows 8.1 Enterprise	Windows 7 pro	Windows8.1 Pro
	7	導入年度	2015年度	2012年度	2015年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)		○	○
	9	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)			
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	手順通り検証でき、問題は認められなかった。 設置管理者のネットワーク環境内に組み込まれており、当日はこのPCに、USBメモリを使用して実施した。		手順通り、問題なく実施できた。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	初めにソフトを立ち上げる段階で不具合が生じたPCが1台=1名あったが、別のPCで初めから実施し、以降そのPCは使用しなかった。なお、別のPCで実施した生徒と、一部欠損の生徒は一致しない。なお、一部欠損生徒は2名いる。他の生徒も含め、途中でフリーズすることはなかった。	3回目の調査実施時に生徒がマイク付ヘッドホンを抜いてしまい、その後起動しなくなった。(1台) 当該生徒はすぐにやり直しをしたが、音声データが欠損していた。	問題なく実施できた。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	問題なく回収できた。
	13	検証結果	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。

学校名		Y中学校	Z中学校	
①各学校におけるPCスペース等	1	欠損数/実施数(人) 欠損の詳細 ※詳細は検証報告書9ページに記載	1/157 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：1人	15/155 音声データの全部または一部が聞き取り不能で採点できなかった：2人 設問ごとに作成される音声データの全部または一部が作成されなかった：13人
	2	実施場所	パソコン室	コンピュータ室
	3	CPUクロック数	2.4GHz	3.3GHz
	4	メモリ	2GB	4GB
	5	HDD使用状況 (空き容量/全体容量)	200GB/250GB	17.6GB/49.9GB
	6	OS	Windows7	Windows7
	7	導入年度	2012年度	2014年度
	8	導入ソフトウェアの有無 (環境復元ソフトウェア)	○	
	8	導入ソフトウェアの有無 (セキュリティソフトウェア)		
9	PCの使用頻度	授業で毎週1コマ以上使用	授業で週4コマ使用	
②各学校における実施状況の確認	10	事前の準備状況(事前検証で把握した課題とその対応、手順通りに実施できたか等)	問題なく、手順通りに実施できた。	事前検証ツールを業者及び設置管理者の担当と確認。きちんと動作保存できることを確認できた。 2月の頭に事前検証ツールで確認し、音声が取れていることを確認。
	11	当日の実施状況(不具合が発生し途中でフリーズしてやりなおしたPCがあったか等)	生徒用PCが途中で1台フリーズしたため、急遽、教師用PCで実施した。	フリーズすることも全くなく、スムーズに最後まで実施できた。
	12	事後の回収状況(回収時のプロセスの確認等)	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収	USBで1本ずつ計2本それぞれ回収
	13	検証結果	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。	当該校への聞き取り及びデータ欠損等の発生状況から、当日使用した端末になんらかの偶発的な不具合が発生し調査に影響したものと推測されるが、その原因を特定するには至らなかった。

全国学力・学習状況調査 中学校英語「話すこと」調査について
全日本中学校校長会からの意見・要望
(文部科学省学力調査室にて要約)

1. 英語調査の意義や継続的な実施の是非について

(1) 「話すこと」調査に対する考え方

- 4技能を（聞く、読む、話す、書く）をバランス良く育てることが重要である。
- 「話すこと」調査が行われたことにより、現在の生徒の会話力の把握ができ、今後の指導における示唆を得ることができて、大変貴重だった。
- 中学校で目指すゴールが具現化されるため、小学校の外国語指導にも良い影響を与えることができたと思う。
- 生徒の日々の学習がどの程度定着したかを把握する上で役立つ。継続的な取組と調査の実施がさらに生徒の英語力の向上を後押しするものとする。
- 今回の調査は、生徒たちの「話すこと」に対する意識付けという側面からも有意義だった。
- 高校入試や大学入試でも「話すこと」の力が問われる中、全国学力・学習状況調査で「話すこと」の学習状況を調査することは、生徒・保護者への意識改革という点でも効果的である。
- 今回の調査を利用して、英語力や指導力の向上をうたうような改革が出て、現場の教師の多忙化に拍車がかかることが心配。
- 調査が調査で終わってしまい、実際の授業につながっているかというところが不明であり、その点を改善する必要があるのではないか。
- この調査をきっかけとして、定期考査や高校入試の改善につながればよいと思う。
- 全国一律にすべての中学校で実施する必要があるのかどうか、検討の余地があるように思う。

2. 次回の英語調査の実施方法について

(1) 実施方法（ICT環境）について

- 設置管理者によって大きくICT環境が異なるため、まずはその条件をある程度整えることが必要なのではないか。
- 環境復元ソフトを使っていたため、前日からPCの電源を入れたままにしなければならなかった。
- タブレットを使用している学校では、調査中に充電が切れてしまうという問題（充電ロッカーで充電するためAC電源なし）の解消が必要である。
- 現在の学校現場の環境設備では（PC教室がオープンなつくりとなっている学校が多い）、「話すこと」に関する生徒の力を確実に把握することは難しい。
- あらかじめ問題がセッティングされたタブレットを配布し、そのタブレットに直接解答を録音するような形式であれば、教員の負担は軽減されることが考えられる。
- 生徒が普段使用しないヘッドセットの使用など、本来測定しようとしている「話す力」以外の要素の干渉が大きいのではないか。
- 事前に、実際の機器を使って、生徒に慣れさせた上で調査を実施することが望ましい。
- 今回の調査に近い活動が出来るソフトやアプリなどが使える環境を作ってもらいたい。

(2) 調査の時間割について

- 調査当日は、午前中に4学級、午後には3学級の調査を実施した。給食と昼休みをはさんだため問題漏えいの可能性は否定できない。
- プログラム展開がうまくいかず、使用できたパソコンに限りがあり、1学級を1度に調査できず、6時間目終了時間を越えての実施となった。
- 音声データ回収が勤務時間後となり、業者が時間外のため連絡がつかなかった。午前中の調査であれば、データ回収作業まで、勤務時間内に終わらせることができるのではないかと。
- 「話すこと」調査も含めて1日で終了させるスケジュールは厳しいので、数日にわたる時間割を検討すべきではないかと。

(3) 教職員の作業、事前準備の時期について

- 事前検証ツールによる環境確認、調査の事前準備、当日の音声データ回収作業も、学校の教職員だけでは時間的・精神的な負担が大きいため、ICT支援員や業者等の支援が必要である。
- 4月は人事異動などの関係で教職員は多忙なので、教育委員会に相当の準備をお願いせざるを得なかった。
- 4月の調査前準備は、5名（教務主任、英語科教師、ICT支援員）で40台のPCの動作確認を行ったが、これだけで2時間近く要した。前日の調査プログラムのロック解除も2時間程度、調査後の音声データ回収も2時間程度の時間を要した。
- 事前準備で負担感、危機感が強かった教職員も、実際にやってみて「これならできる」という感触を得ていた。
- 「話すこと」調査の調査マニュアルが分量が多く読みづらく、要点を得にくいものだった。
- 調査前日は教育委員会への連絡が集中し、どの学校も焦りがあつたように思われる。
- サーバー経由ではうまく音声データ回収ができず、全PCから音声データをUSBで回収することとなりかなりの時間を費やした。
- 音声が確実に録音できているかどうか確認したかったが、それができず不安に思った。
- 音声データの回収作業は複数台のPCで試行しておらず、限られた時間内でできるか分からなかった。
- 英語科教員が監督したが、調査プログラムの起動の仕方や調査内容の説明を直接受けていなかったため、正常に動いているかの判断ができなかった。

(4) その他

- 今回の実施形態では、委託業者の介入・支援が必須であると感じられた。
- 事前準備、調査プログラム展開等の質問に対する電話サポート（コールセンター）があつてよかった。
- コールセンターがつながりにくい状況であつた。

3. 生徒の様子について

- 本校生徒は普段からスピーキングテストに慣れているので、特に困惑した様子は見られなかった。
- 本校では、スカイプを活用して、海外のネイティブと英会話をする活動を複数回実施している。さらに英語のみを使用する施設での体験や海外の高校生との交流などを行っている。生徒たちの英語で「話すこと」の意欲が高まり、着実に力がついてきていることが実感でき、今回の調査も有意義だったと考えている。
- 対面式での活動はしているが、PCに向かって話す活動を授業で行っていなかったため、今回の調査では生徒が困惑している状況が見られた。
- 隣の生徒の声が大きく、ヘッドセットから問題が聞こえないと訴える生徒がいた。
- PC画面のスタートボタンが分かりにくく（画面右下の小さいボタン）、戸惑っている生徒が見られた。
- 特別な配慮を要する生徒の調査のあり方については検討の余地がある。